

人形浄瑠璃街道フェスティバル

西宮

淡路

徳島

人形浄瑠璃は、西宮神社の「戎かき」が淡路に人形の操り技術を伝え、それが発展したものだといわれており、その後、徳島藩主蜂須賀公の庇護を受け、淡路や阿波の人形座が全国へ巡業したことにより全国へ広まったものです。

現在でも、淡路では全国唯一のプロの人形座が活躍しています、

徳島では小屋掛や県内各地の農村舞台での公演、また、新作人形浄瑠璃や他ジャンルとのコラボレーションなどを行っており、徳島・淡路が人形浄瑠璃の最も盛んな地域であると言っても過言ではありません。

西宮から淡路・徳島、そして全国へ。人形浄瑠璃発展の歴史的経路とも言えます、この「人形浄瑠璃街道」に思いを馳せ、それぞれの地域の持つ文化資源の深い魅力に触れてみてください。

阿波・淡路の人形浄瑠璃は、それぞれユネスコ・アジア文化センター（ACCU）主催の

「コミュニティにおける無形文化遺産の活性化の優良事例コンテスト」において、ACCU賞を受賞しています。

講師紹介・演目解説

河内厚郎

西宮市生まれ。演劇評論家として執筆業に入る。1987年より「関西文學」編集長を2期つとめる。現在は時事通信の書評を担当。夙川学院短期大学教授、追手門学院大学客員教授、関西経済同友会幹事、兵庫県立芸術文化センター特別参与。賞歴としては、「咲くやこの花賞」（大阪市）、「読売賞」（読売新聞大阪本社）、「文化功労賞」（宝塚市）、「文化功労賞」（兵庫県）などがある。文化プロデューサーとして数多くのイベントに関わり、西宮発の文化発信を手がけている。

「三番叟まわし」

三番叟まわしは四国の代表的な正月の祝福芸であり、阿波の箱廻し芸人は、二つの木箱に、千歳・翁・三番叟とえびすの4体の木偶を入れ、家々を門付けしてまわりました。木偶を操り「五穀豊穡」「無病息災」「家内安全」「商売繁盛」などを予祝するこの演目は、新年を迎えた人々に明るい展望と生きる勇気を与えます。徳島から全国に阿波・淡路の木偶文化を運んだ「箱廻し」芸人の血流を受け継ぐ、「阿波木偶箱廻しを復活する会」の「三番叟まわし」をどうぞお楽しみください。

「戎かき・えびす舞」の競演

釣り竿をかついで船に乗り込んだえびす様が次々に魚やお宝を釣り上げて御殿にお帰りになり、御神酒（おみき）を召し上がりながら五穀豊穡、沖の大漁、お家安泰、商売繁盛を祈って舞い踊る楽しい演目です。

今回は、西宮で伝統文化の復活・継承に取り組んでいる「えびす座」による「戎かき」の実演と、淡路人形浄瑠璃の新たな担い手であります「三原中学校郷土部」、また、人形浄瑠璃が徳島の山間部まで伝承したことが伺えます「木沢芸能振興会」の2団体による「えびす舞」を上演します。それぞれの地域におけるえびす様の動きの違いなどを楽しんでいただきたいと思います。

「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」

徳島藩のお家騒動に絡んで、盗まれた主君の刀を詮議するために阿波の十郎兵衛、お弓の夫婦は名を変え盗賊に身をやつし、大阪・玉造に住んでいます。そこへ訪れた娘・お鶴。娘の身に危険が及ばないようにと、親としての名乗りを上げられず涙を飲んで別れるお弓。別れの場面では、抑えられない母の情けが切なく響きます。関西と徳島を結ぶ代表的な人形浄瑠璃の外題を、徳島県の「名月座」が情感豊かに演じ上げます。じっくりとご覧ください。

脇町劇場オデオン座

美馬市脇町猪尻西分140-1 ●脇町ICから車で10分



河内氏近影

阿波木偶箱廻しを復活する会



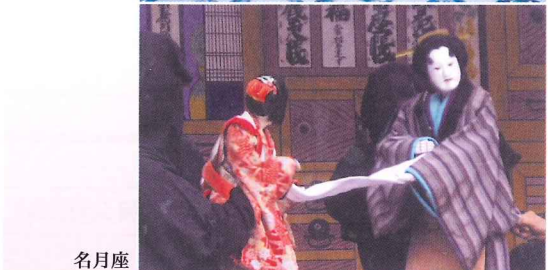
えびす座



三原中学校郷土部



木沢芸能振興会



名月座